



アカデミック・専門医による

花粉症・ちくのう症最新事情 『知ってほしい！対策と知識』



NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会

目次

[P2. これって、風邪？ちくのう症？見分け方は？](#)

[P3. 子どもにおすすめ！舌下免疫療法【ハウスダスト・ダニ】](#)

[P4. 切らない！ちくのう症のカテーテル治療とは](#)

[P5. 「難治性のちくのう症」とは？治すには？](#)

[P6. コラム「花粉暴露室ってどんな施設」](#)



大久保公裕 先生

オオクボ キミヒロ

日本医科大学大学院医学研究科 頭頸部感覚器科学分野 教授
NPO「花粉症・花副鼻腔炎治療推進会」理事長
免疫アレルギー性疾患を専門に研究し、花粉症治療の第一人者。
国や企業と共同でアレルギー性鼻炎の新しい治療法を
研究開発している。

松根彰志 先生

マツネ ショウジ

日本医科大学医学部 耳鼻咽喉科学 教授
NPO「花粉症・花副鼻腔炎治療推進会」事務局長
難治性副鼻腔炎（好酸球性副鼻腔炎など）の研究をし、
副鼻腔炎のカテーテル治療にも積極的に取り組んでいる。
日本医科大学武蔵小杉病院耳鼻咽喉科部長も務める。



NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会

これって、風邪？ちくのう症？ 見分け方は？



風邪とちくのう症の違い

風邪は原因になるウイルスを鼻やノドから吸い込むことによる全身の病気です。

ノドが痛くなったり、鼻水が出るだけでなく、体がだるくなったり、熱がでたり、体の節々が痛くなるのが特徴です。

一方、ちくのう症（副鼻腔炎）は、副鼻腔という鼻の周囲にあるちくのうが溜るエリアの炎症によるものです。

従って、鼻の周辺の症状が中心で、鼻が詰まって、嫌なニオイがしたり、声がおかしくなったり、頭重も起こります。しかし、微熱傾向はあっても、風邪のような高熱が出ることはほぼありません。

つまり、風邪は全身的な病気、ちくのう症は鼻の局所の病気といえます。

また、風邪はウイルスが原因で起こるので、期間が限定的な病気です。風邪の症状が同じ調子で3か月、半年も続くことはありません。

一方、ちくのう症は多少の増悪、軽快はあっても、症状がいつまでもダラダラと続きます。

症状	風邪	ちくのう症
鼻水・鼻づまり	○	○
ノドの痛み	○	○
嫌なニオイ	△	○
声がおかしい	△	○
全身がだるい	○	×
節々が痛い	○	×
頭が重い	△	○
高熱	○	×
症状の長さ	短期	長期



ちくのう症かわからない時は？

鼻炎や花粉症は鼻の炎症ですが、ちくのう症では鼻だけでなく鼻の周囲の副鼻腔での炎症が起こります。

判断がつかないときは、病院でCT検査をするといいでしょう。

ちくのう症であれば、CTを撮ると鼻の周囲にすりガラスの曇った絵が写ります。これが見つかれば、ちくのう症は間違いありません。

子どもにおすすめ！舌下免疫療法 【ハウスダスト・ダニ】



子どもの通年性アレルギー性鼻炎、治すには？

通年性アレルギー性鼻炎にかかっているお子さんは、毎朝起きるとくしゃみがでたり、鼻をよくかみます。学校に行ってもホコリっぽいと鼻が詰まってしまうので、勉強に集中できず、能力が発揮できません。治療には抗ヒスタミン薬などを使用しますが、アレルギーの薬を飲むと眠くなる子もいたり、子どものうちからずっと薬を使い続けて大丈夫か心配する親御さんもいます。

そこでおすすめするのが、アレルゲン免疫療法のひとつ「舌下免疫療法」です。アレルゲン免疫療法は、免疫にアプローチして、アレルギーの根治を目指す治療法です。舌下免疫療法の場合は、舌の下にアレルギーの原因物質を含む錠剤を置いて溶かし、体の中に取り込みます。

通年性アレルギー性鼻炎の原因はほとんどがダニです。ダニの舌下免疫療法によって、毎日体にダニを取り込むと、だんだん体が慣れてきて、徐々にくしゃみや鼻水が出なくなります。子どもは大人に比べてアレルギーに罹患した期間が短いので、大人よりも早く効果が表れ、治る可能性が高いといえます。治療1年目でもよくなって、薬が要らなくなるケースもあるほどです。



ダニ舌下免疫療法の治療方法

舌下免疫療法は3年間の治療が基本です。皮下注射による免疫療法もあります。これも治療期間は3年間程度ですが、最初3か月は1週間ごとに徐々に濃度を上げていくため、都度来院してもらいます。舌下だと、最初の1、2週間は来院が必要ですが、その後は1か月に1回の定期的な受診だけですみます。

やり方は、花粉症の舌下免疫療法と同じで、ダニのエキスが入った治療薬を舌の下に置き、1分間程度保持したあと、飲み込んでもらいます。5歳から治療を受けることができます。

トリーさんの	ア	レ	ル	ゲ	ン
免	疫	療	法	ナ	ビ

鳥居薬品のアレルギー免疫療法専門サイト

“舌下免疫療法”について
知りたい方はこちら

切らない！ちくのう症の カテーテル治療とは



ちくのう症（副鼻腔炎）のカテーテル治療とは

カテーテル治療は、鼻の中にカテーテルを入れて、鼻や副鼻腔の中に溜まった膿を出したり、そこに薬を投与したりします。普通、ちくのう症（副鼻腔炎）の治療は飲み薬が効かないと内視鏡手術が必要とされています。手術は重要な手段ですが、しかし手術を行わなくてもカテーテルを使うことで、全てではありませんが、多くのちくのう症を治すことができるのです。

カテーテルの使い方

このカテーテルは日本製で、シリコンでできています。（図①）
ダブルバルーンカテーテルといって、風船が二つついています。これを鼻の中に入れて風船を二つ膨らませると、鼻の中の後ろと、鼻の穴の入り口の両方をブロックすることができます。（図②）

図①

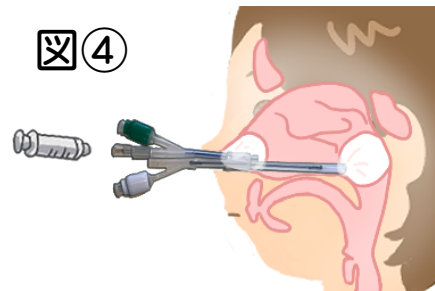
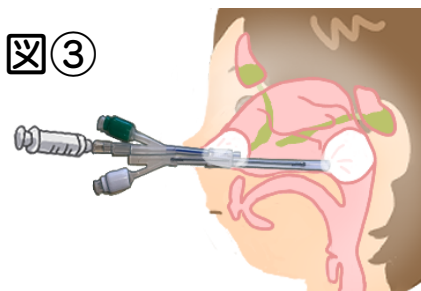
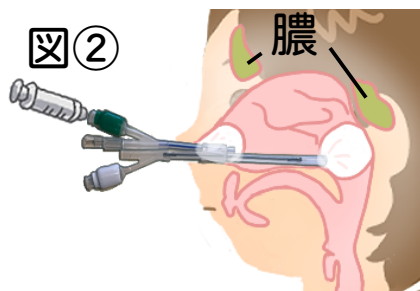


鼻の穴とちくのうが溜まる場所（副鼻腔）は繋がっているのです、そこが閉鎖空間になります。その状態を作って、注射器をもうひとつのチャンネルに刺し、注射器を動かして陰圧・陽圧を加えると、副鼻腔の空洞の中にある粘液（膿）が鼻の中に出て来きます。（図③）

このように排泄を良くした状態を作った上で、最後に仕上げとして、注射器に薬を入れて陰圧と陽圧を加えると、圧の差で注射器の中の薬が副鼻腔に移行します。（図④）

その結果、薬液が病気になっている副鼻腔の粘膜にしっかり届けられて、副鼻腔の炎症が治まります。鼻の中に鼻茸ポリープが山盛りの状態だと、カテーテルが入らないので、この治療法はできませんが、急性ちくのう症や鼻茸がさほど酷くないケースでは、カテーテル治療を外来で3回程度行うと症状が大きく改善します。

カテーテル治療のおかげで手術まで至らなかった患者さんも少なくありません。



カテーテル治療は保険が使える

カテーテル治療は保険診療で行うことができます。カテーテルは使い捨てで約3,000円、副鼻腔洗浄が約1,000円なので、その他検査などの費用を入れても、保険適用3割負担で数千円で治療ができます。

副鼻腔炎治療用カテーテル

EntDib

株式会社ディヴィンターナショナル



「難治性のちくのう症」 とは？治すには？



難治性のちくのう症とは



ちくのう症（副鼻腔炎）とは、鼻の周りにある空洞（副鼻腔）に膿が溜ることをさします。これは昔からある病気ですが、その中に「難治性副鼻腔炎」があることが2000年頃にわかりました。しかもその割合は増えています。

難治性副鼻腔炎の特徴は、大きな鼻茸が鼻の中にたくさんできることです。そのため、鼻づまりが強く、一般的なちくのう症よりも嗅覚障害がひどくなります。また6～7割の人が、鼻にとどまらず喘息を合併しています。

そして、最大の特徴は再発性が強いことです。副鼻腔炎に対する内視鏡手術でいったん鼻の中をきれいにしても、適切な治療を行わなければ、すぐに再発します。

難治性副鼻腔炎の正式名称は「好酸球性副鼻腔炎」とい

います。再発性の原因は、この好酸球という粘膜を破壊する物質の増加にあると考えられています。



難治性のちくのう症を治すには

一般的なちくのう症は抗菌薬と内視鏡手術によって治療できますが、難治性副鼻腔炎は残念ながら手術してもすぐに再発してしまいます。これまで手術後の再発を抑える薬はステロイドの飲み薬しかありませんでした。ステロイドは効果的ではあるものの、長期に使用すると副作用が問題になります。

しかし、数年前から、一定の基準をクリアすれば、生物学的製剤、いわゆる抗体治療薬（一般名「デュプリマブ」）の使用が可能になりました。この薬は世界中で臨床試験が実施されましたが、ひどい副作用が報告されていません。すでに重い喘息やアトピー性皮膚炎の治療薬としても利用されています。

これによって、ステロイドに頼らなくても、難治の状態から比較的安定的な状態に持っていけるようになりました。



sanofi

コラム

「花粉暴露室ってどんな施設」



花粉暴露室は、例えば 5m × 5m の部屋に花粉をまいて、そこに
いる人たちに症状を起こしてもらおう施設です。例えば、薬を飲んで
いる人と飲んでいない人で症状の違いがあるのかを比較できます。
このような施設は世界で 6 ～ 7 か所しかありませんが、日本には東
京新宿区の「オハイオチェンバー」があります。

当NPOの連携施設

花粉暴露トライアル施設
OHIO Chamber

詳しくはココをクリック



NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会

NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会のご紹介

当 NPO は、平成 25 年（2013 年）10 月に東京都庁への届け出などを完了して活動を開始しました。
対象は、スギ花粉症をはじめとするアレルギー性鼻炎や難治性の副鼻腔炎（蓄膿症）など お鼻の困りごと！
市民講座に加え、web や動画を用いた啓発活動に力を入れています。

- 目的 1. 市民の皆様にも、診療や研究に基づく大学病院発の正しい情報をお届けする。
- 目的 2. 研究活動や研究会開催、講演会などを支援する。

